

資料渉猟余話

その84

今年の一月十八日付の本紙に、「地域の方も読んで」と題して、下伊那教育会編の児童文集『くわの実』・生徒文集『桑の実』購読の誘いが載った。この文集は南信州地域資料センターにもよく寄贈されてくることとあわせて、私もかつてその編集と発行に携わったことから、関係記事を書かせていただく。

『桑の実』が呱呱の声をあげたのは、昭和三十一年八月二十日である。以来、飯田下伊那地区の小中学校から児童生徒の代表作品を集めて毎年発行され、今年度で還暦を迎え

行となったので、今年度が第三十九号となった。『くわの実』、中学生版が『桑の実』となった。

ご承知の通り、この文集は、子どもの発達段階によって表紙の題字が異なっている。その中でも創刊号は、小学校一年生から四年生までが『くわのみ』、小学校五年生から中学校三年

創刊以来、今年度で還暦を迎える児童・生徒文集

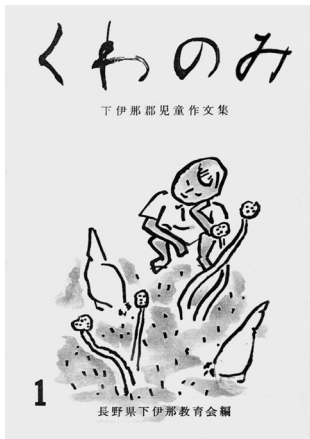
鎌倉 貞男

『桑の実』が呱呱の声をあげたのは、昭和三十一年八月二十日である。以来、飯田下伊那地区の小中学校から児童生徒の代表作品を集めて毎年発行され、今年度で還暦を迎え

行となったので、今年度が第三十九号となった。『くわの実』、中学生版が『桑の実』となった。ご承知の通り、この文集は、子どもの発達段階によって表紙の題字が異なっている。その中でも創刊号は、小学校一年生から四年生までが『くわのみ』、小学校五年生から中学校三年

年生までが『桑の実』であった。翌年から、小学校低学年が『くわのみ』、同高学年が『くわの実』、中学生が『桑の実』に変わった。これは、熊谷元一・高木庄三・後沢為雄等、当時の美術教師の絵だった。平成二十年（第六十一号）から現在の形式（小学生版が

の書家中村杏山であり、その後もずっと変わったっていない。それに對して、表紙絵は年々変わっていった。初期の『くわの実』は、熊谷元一・高木庄三・後沢為雄等、当時の美術教師の絵だった。平成二十年（第六十一号）から現在の形式（小学生版が



『くわのみ』創刊号

した方々の努力にも敬意を表したい。余談になるが、退職後、私が下伊那教育会館に勤務していた頃のことである。ある時、他県から中年男性が訪ねてきて、窓口で『桑の実』を見せて欲しいと言ったのである。聞けば、子どもの頃、自分の作品が同文集に載ったのでぜひ見たいとのことである。またある時は、やはり遠方の方から電話をいただき、同種の依頼を受けた。いずれも保管場所に案内し、探してもらったように覚えている。私は、その時、この文集がよその方からも注目されていることに驚いた。このように、時を隔ててもなお思い出される刊行

物はないような気がする。その後、私は、この文集が下伊那教育会館のみならず、飯田中央図書館にも保管されていることを知った。同じく、上記のことを思いついた。同い合わせ、今後ぜひ発行し続けて欲しいものである。（人名等、敬称略）



『桑の実』創刊号